

レッツ トライ
Let's Try
セルフ
メンテナンス

家庭でできるすまいの維持管理

正しい掃除で長くキレイに使いたい 和室のお手入れ法をマスター!

和室の正しい掃除法をご存知ですか? 昔のように「はたき」や「ほうき」を使って掃除をする人が少なくなった今、畳や障子、柱などはどんな方法で掃除するのがいいのでしょうか。日本清掃収納協会の橋本敦子さんに聞きました。

和室はホコリと湿気が大敵。

木材やイグサ、和紙など、天然素材を使うことのできる和室。掃除は素材の傷みやカビの原因となる湿気に気を配り、ホコリをためないように小まめに行うことがポイントです。



**掃除機はやさしくかけて!
拭き掃除はお湯で十分です。**

掃除機は「弱」に設定し、畳の目に沿ってゆっくりと力を入れすぎないようにかけましょう。力を入れてこすってしまうと畳表のささくれの原因になります。畳の縁(へり)などに詰まっているホコリは刷毛などを使ってかき出します。

拭き掃除は、掃除機をかけてから、お湯を固く絞った雑巾で畳の目に沿って拭きます。変色(黄ばみ)を和らげるには、水1ℓに酢100mlの割合の酢水で拭きましょう。殺菌効果もあり、酢の臭いはすぐに消えます。洗剤の使用は変色の原因になるので避けましょう。



●カビの予防に…年1回、畳を持ち上げてペットボトル(中はカラにしてフタは閉めておく)で支え、扇風機の風を約1時間あてましょう。カビの発生を抑えることができます。

床の間

ホコリは手作りハタキ(障子の項参照)で丁寧にはらいませう。床板、床柱ともに拭き掃除は水拭きは避けて、必ず乾拭きします。無垢の床柱はヌカ袋(柱の項参照)で磨いてツヤを出すと汚れ予防にもなります。

押入れ

1年に1回は中の物を出して掃除しましょう。内部のホコリは手作りのハタキではらい、中段や床板など水拭きできるところは固く絞った雑巾で拭いてから乾拭きします。次に扇風機をかけて乾燥させ、十分に乾いてから消毒用エタノールをスプレーするとカビ予防になります。湿気がたまりやすい天袋は、新聞紙を敷いて除湿するようにしましょう。保冷剤の中身を出して空き容器などに入れて置いておいても除湿効果があります。



▲保冷剤



**洗剤の使用や水拭きは禁物、
簡単な手作りハタキを活用!**

菜箸とフローリング用ドライシートで手作りしたハタキ(右)で丁寧に畳のホコリを落とします。敷居の汚れは、敷居に輪ゴムを3・4本置き、障子の枠を持ち上げて開閉して輪ゴムをはさみ込ませておくと、開閉するたびにホコリを絡め取ってくれます。



▲ドライシートは床掃除で使わなかった部分を切って利用。12枚程度を束ねて菜箸にビニールひもで縛る



▲敷居のホコリ取りに輪ゴムを活用

●汚れの予防に…障子紙の黄ばみ防止には、水500mlに酢小さじ1の酢水を霧吹きで吹きかけておきましょう。



**手垢汚れは水拭きで。
ヌカで磨くと汚れの予防に。**

手垢などがついた時には、フローリング用のドライシートや水を固く絞った雑巾で拭きます。洗剤の使用はシミの原因になるので避けましょう。

●汚れの予防に…ヌカをお茶パックに入れて(右)磨くと、ヌカの脂分でツヤが出て汚れ予防にもなります。



▲お茶パックを2重にするとヌカがこぼれにくい

襖の取っ手(汚れ予防)

ヘアトリートメントと水を1対1で混ぜてキッチンペーパーに含ませ、襖につかないように塗って乾かします。

座布団(汚れ予防)

洗うと型崩れします。水100mlに柔軟剤3滴を溶かし、全体にスプレーして乾かすと、汚れを予防します。

指導: 日本清掃収納協会・橋本敦子さん

キレイな空間を作ることで世の中に貢献しようとして設立された日本清掃収納協会の認定講師。京安心すまいセンターが運営する「すまいスクール出張版」講師としても活躍中!

日本清掃収納協会のHPは <http://seisou-s.org/>